

夢を追いかけて未来をつくりだしてきたのが人間。そのときは夢物語と思われたことも、見続けていれば、いつかはきっと実現します。大林組が20世紀に夢見た未来。それらのビッグプロジェクトが現実のものになる、新しい世紀が開幕しました。

20世紀が見た夢は、21世紀が創ります。



人口1万人の月面都市「ルナシティ2050」

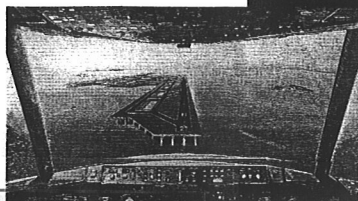
20世紀なかばの1957年に世界最初の人工衛星スプートニク1号が打ち上げられました。21世紀なかば、人類は月での居住を開始しているでしょう。月面は地震も風もなく、引力は地球の6分の1。地球では不可能なスタイルの建築カタル「ルナタワー」は高さ500メートル、円形のドームが住居施設で人口は約1万人。交通機関やライフラインはすべて地下化されています。

※これ5の戦艦は、大林組のPR誌「月刊大林」掲載企画より抜粋したものです。画：張仁誠 他 施工・竣工費は概算見込みです。



火星を第2の地球に「マーズハビテーション1」

地球にもっとも近い惑星が火星。水や大気も存在するといわれ、現在の技術でも約3年で往復が可能で、21世紀なかばには研究・探査を目的に150～200人ほどの専門家が居住を開始するでしょう。水、酸素、食料などをすべてを自給自足し、廃棄物は循環システムで再利用。徐々に大気の組成を地球に近くし、植物を育てていけば、第2の地球にするのも夢ではありません。

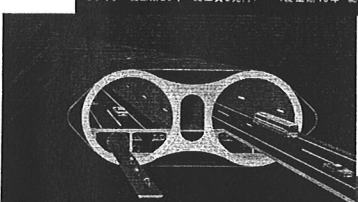


大陸へとつながる海の道「日韓トンネル」

青函トンネルと本州連絡橋が完成し、日本は一本列島になりました。次は大陸と陸続きになるトンネルです。九州の北端から釜山、対馬を通って韓国の最南端まで、橋梁と海底トンネルさらに定上りの手道である海中トンネルで結びます。海中トンネルは鋼鉄管とコンクリート・パイプを組み合わせて海峡の水深をこえていきます。(竣工期20年・竣工費3兆円)

24時間稼働するメガシティ「海上空港都市」

20世紀は航空機の世紀。ライト兄弟が発明した軽気球はいまや超音速旅客機にまで進化しました。それは同時に空港発展の足掛かりでもありました。21世紀はさらなる大航空機時代となるでしょう。そのとき我が国で未来型空港を実現できるのは海上においては考えられません。水深100メートルにつくられる24時間稼働の空港都市です。(竣工期10年・竣工費10兆6000億円)

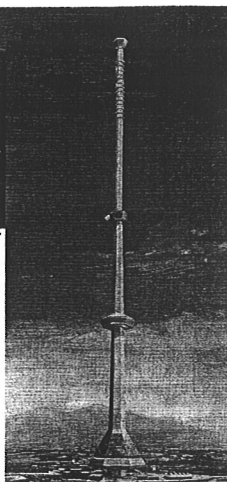


人工地盤による都市大改造「ラピッド構想」

世界有数の造港都市・東京の上空に巨大な人工地盤をつくり、下部になる既存の都市を整理しながら、まったく新しい都市を築くことも可能。業務機能と居住機能の高度な集積により、臨海近接を実現しながら、緑豊かな空間も誕生させます。人工地盤の下部は商業・公共施設、駐車場など日中の不要な施設、支持システムは免震装置を導入。大震災にも安全です。

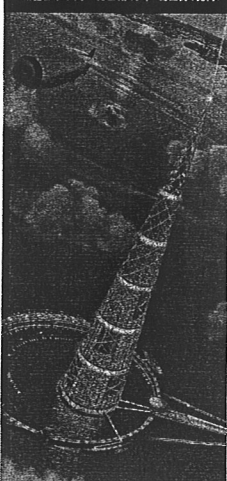
極限の高さ1000メートルに挑む「サ・タワー1000」

天まで届け、高みを越えたいと願う人間の想いは大昔から多数の塔をまみだしてきました。これまでに建てられた世界中のどの塔よりもはるかに高く、高さ1000メートルのスーパータワー。太陽熱発電、超伝導送電、人工降雨、電力発電、高圧気象観測、さらに熱度力実験など、未来を想定した新しい用途に可能性をひらくことでしょう。(竣工期4年・竣工費1200億円)



高さ800メートルの超々高層ビル「ミレニアムタワー計画」

ビルはどこまで高くできるか。現在考えられる限界がミレニアムタワー。大林組の技術者とイギリスの建築家ノーラン・ワグスター共同設計したものです。ビル本体が150階建てで高さ600メートル、塔部分が200メートルで500メートルに達します。空気力学を採用した外周のヘリカル構造や金網システムにより地震、台風にも安全。人口2万人の超々都市です。(竣工期10年・竣工費1兆円)



2001年、大林組は創業110年をむかえます。

東京本社 〒108-8502 東京都港区南2-15-2 TEL.03-5769-1111(総合番号案内) 本店 〒540-8584 大阪府中央区南東区4-33 TEL.06-6946-4400(電話番号案内) <http://www.obayashi.co.jp/>

株式会社大林組

大陸へとつながる海の道〈日韓トンネル〉

青函トンネルと本四連絡橋が完成し、日本は一本列島になりました。次は大陸と陸続きになるトンネルです。九州の北端から壱岐、対馬を通して韓国の最南端まで。橋梁と海底トンネルさらに史上初の手法である海中トンネルで結びます。海中トンネルは鋼鉄枠とコンクリート・パイプを組み合わせて海峡の大水深部をこえていきます。〈総工期20年・総工費3兆円〉

24時間稼働するメガシティ〈海上空港都市〉

20世紀は航空機の世紀。ライト兄弟が発明した複葉機はいまや超音速旅客機にまで進化したのです。それは同時に空港発展史でもありました。21世紀はさらなる大航空機時代となるでしょう。そのとき我が国で未来型空港を実現できるのは海上においては考えられません。水深100メートルにつくられる24時間稼働の空港都市です。〈総工期10年・総工費10兆6000億円〉

